



「私のリビングウィル」

最善の医療を尽くしても改善が望めず死に至る最終段階に陥る可能性があなたに生じた時、下記の項目に関して、ご自身の意思に近いものにレ点を付けてください。なお、質問項目でわからないことがあれば医師、看護師に遠慮することなくお尋ねください。

1. あなたが予後不良の状態になったと私たちが判断した場合には、それを知らせてほしいですか。

はい いいえ

2. 最終段階には至らないが、最善を尽くしても悪化の一途をたどる状態にあると判断された場合に、あなたの望む医療行為について、あなたの意思に近いものにレ点を付けてください。なお、通常の輸液、解熱剤、麻薬を含む鎮痛剤、抗生物質などの苦痛を緩和する治療については最善を尽くして実施します。

高カロリー輸液は希望しない。
 経管栄養（胃ろうを含む）は希望しない

3. 最期がまぢかな最終段階では、以下の医療行為は一時的な延命効果が期待できませんが、かえってからだへの負担となる場合があります。これらの治療の実施に対してあなたの意思に近いものがあればレ点を付けてください。

心臓マッサージは希望しない。
 電氣的除細動は希望しない。
 人工呼吸器の装着は希望しない。
 昇圧剤などの蘇生のための薬物投与は希望しない。

4. 最期の時を迎える場所はどこを希望されますか。

病院 自宅 その他（ ）

5. 意思表示ができなくなった場合に、あなたに代わって治療に関して私たちに相談してほしい方のお名前とあなたとのご関係をお書きください。



お名前 _____ ご関係 ()

6. その他に希望されることがあればお書きください。

説明年月日 _____年 _____月 _____日

説明医師 とよはし血液腫瘍内科
 杉浦 勇

記載日 _____年 _____月 _____日

本人署名 _____

同意者署名 (ご家族など) _____ ご関係 ()

院長受け取り日 _____年 _____月 _____日



私のリビングウィル

～自分らしい最期を迎えるために～

(あなたの意思を伝える事前要望書)

はじめに

医学の進歩は、感染症などの急性疾患による死亡を減らしましたが、悪性腫瘍などによる重篤な疾患による死亡を確実に減らすことはできません。人は誰にでも訪れる最期を歳とともに自然に覚悟することもあります。病気などで急に最期を迎えざるを得ないときには、この準備が整わないことも少なくありません。

病気はあるとき症状が出て峠を越えて治っていくのが普通です。この時に医療の支えが必要ことがあります。しかし、重い病気の場合は、最善の医療でも治すことができません。このような場合には、経過が急速な場合もありますが、治療で全身状態が比較的安定した状態から、悪化の一途をたどる時期を経て、最終段階を迎えることになります。

「私のリビングウィル」は、この最終段階になってしまったときに、あなたが望まない延命処置を、あらかじめ自分自身で選んで記録しておくものです。仮にあなたの意思が表明できなくなっても、ご本人の望まない医療行為を、私たちが実施してしまうことを避けることができます。

一部、繰り返しになるところがありますが、「私のリビングウィル」を書いていただく際のポイントは、以下の通りです。



- 1) 将来、最終段階にどんな医療を希望するのかをあらかじめご自身で記録として残す
ものです。
- 2) ご家族とよく話し合っ、必要であれば、主治医とも相談してどのような治療を望ま
れるのか、あるいは、どのような治療はしてほしくないかについてご記入ください。
- 3) あなたの意思が決まらないうちに無理に記入する必要はありません。また、記入した
ものは現時点でのあなたの意思であって、いつでも修正や撤回ができます。
- 4) 記入されたものは法的な拘束力を伴うものではありません。
- 5) あなたが意思を表明できなくなった時、あなたの意思を最も理解されている方を少な
くとも 1 名指定してください。主治医が今後の治療について相談させていただきます。
事前要望書にはあなたの署名だけでなく、この方にもご署名いただくのが理想です。

なお、「私のリビングウィル」に書かれた内容にかかわらず、私たちが予測していない状態で
急変が起きた場合には、まず最善を尽くして救命に努めることを原則とします。



☆ 用語の説明 ☆

用語	意味
最終段階	従来「終末期」と呼ばれていた状態を「人生の最終段階」と呼ぶべきとの意見があります。ここでは「最終段階」という言葉を使用します。「最終段階」の定義については複数の意見があり一定のものにまとめ上げることはまだできていません。当院では「最善を尽くしても、病状が悪化することを食い止められずに数ヶ月以内には死期を迎えると判断される時期」と考えています。この状態は多様であり複数の医師が判断します。また、いったん最終段階と判断された場合であっても回復する場合があります、必要に応じ再検討することもあります。
リビングウィル	最終段階の医療やケアについての患者さんご本人の意思表明書
心臓マッサージ	心臓の機能が停止した状態から心臓を蘇生させる方法のひとつで、胸の上から心臓の圧迫を繰り返します。
人工呼吸器	自分の力で呼吸ができないときに使用する機械です。人工呼吸器を使用する場合には、管（挿管チューブ）を口から気管まで挿入する必要があります。人工呼吸器を一度開始すると、呼吸状態が改善するまで機械を外すことは困難になります。病気の原因により、装着後の死亡に至るまでの期間は異なります。
電氣的除細動	胸に貼った電極を通して心臓に強い電氣的刺激を与え心臓を動かす心肺蘇生法のひとつです。多くの場所に設置されるようになった AED を使用することもあります。病院では専用の高度な除細動器を主に使用します。
高カロリー輸液 栄養補給と水分補給	高カロリー輸液は体の中心部に近い太い血管に点滴ラインを挿入して、通常の点滴では投与できない高濃度の栄養を含む輸液を投与して必要な影響を補給する方法です。過剰な水分が貯留したり、高血糖をきたしたりする可能性があります。高カロリー輸液や経管栄養によって栄養と水分を補給すると、進行性の早い病気がなければ、口から栄養を摂らなくても、月単位で生きられることがあります。水分補給だけでも数週間程度生きていくことができますが、水分補給をしないと数日しか生きられません。
経管栄養（経腸栄養）と胃ろう	経口摂取が不可能あるいは不十分な場合、体外から消化管内に通したチューブを用いて流動食などを投与する処置です。 胃ろうは、おなかから胃に直接穴（ろう孔）をあけ、水分・栄養を入れられるようにするものです。

